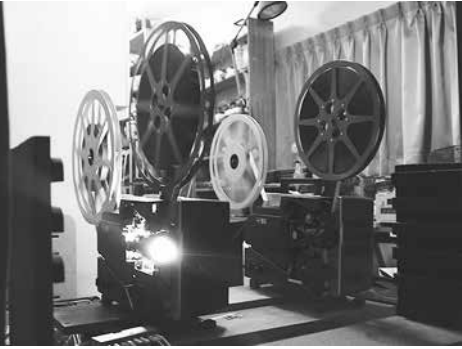


# くにたち 公民館だより

発行  
国立市公民館  
〒186-0004  
国立市中1-15-1  
☎ 042-572-5141  
FAX 042-573-0480  
休館日：毎週月曜日

映写室の16ミリ映写機。1台では50分までしか上映できないため2台使用しています。



公民館では、毎月第4日曜日の昼2時から地下ホールで「CINEVOX公民館映画会」として日本映画・外国映画の、誰でも題名を聞いたことがあるような名作や、知る人ぞ知る隠れた秀作、更にはなかなか見る機会のない記録映画や実験的な手法で作られた短編アニメーションなど、様々な映画を上映しています。

「CINEVOX公民館映画会」のあゆみ

**名作 秀作 たまに珍作・・・**

**上映続けて44年！ その数なんと800本！**

勝嶋啓太（CINEVOX公民館映画会）上映スタッフ

僕は1995（平成7）年からですから、もう18年になります。上映スタッフとして、作品選定やパンフレットの編集、ポスター作り、上映当日のお手伝い等をやらせていただけてきました。しかし、正直これまでの映画会について振り返ることなくやってきました。今回、いい機会なのでちょっと急ぎ足ですが、映画会の歩みを振り返ってみようと思います。

昔の公民館だより等を引っ張り出して調べてみると、公民館が主催しての映画会の歴史は意外と古く、なんと44年前！ 1969（昭和44）年まで遡ります。以後、現在に至るまで約800本の作品を上映してきました。上映しているのは主に16ミリフィルム版ですが、DVDやブルーレイで手軽に家で高画質の映画を楽しめる時代にもかかわらず、おかげさまで、毎回たくさんの方に越えただき、上映作品も好評

で、上映に携わる者として嬉しい限りです。やはり、暗闇の中、スクリーンで映画を見るといのは、家でDVDやブルーレイディスクを見るのとは違う、独特な味わいのようなものがあるのではないかと思っています。

最初は「映画の夕べ」という企画だったそうです。上映作品は記録映画が中心で、日時も毎月第3または第4木曜日（金曜日の時も有り）の夜7時あるいは7時半開始でした。

栄えある（？）第1回「映画の夕べ」は1969年6月19日（木）、上映作品は高崎経済大学の学園紛争を描いた傑作ドキュメンタリー『庄殺の森』（1967年、監督 小川紳介）。

初めて劇映画を上映したのは翌1970（昭和45）年2月26日（木）、上映作品は渥美清、小沢昭一、三木のり平の共演も楽しい喜劇「スクラブ集団」（1968年、監督 田坂具隆）でした。

1970年8月には平和記念事業として『8・15記念映画祭』を開催。以後、毎年8月には反戦・平和をテーマにした作品を上映することが慣習となります。今年も長崎に原爆が落とされる前日の庶民の日常生活を描き、静かに反戦を訴えた秀作「TOMORROW / 明日」（1988年、監督 黒木和雄）を上映しました。

また1970年から1973（昭和48）年までは「くにたち市民文化祭」にも参加。3日間連続の日替わり上映で、上映作品は『赤ひげ』（1965年、監督 黒澤明）や『神々の深き欲望』（1968年、監督 今村昌平）、『二十四の瞳』（1954年、監督 木下恵介）、『市民ケーン』（1940年、監督 オートソン・ウェルズ）などの名作が顔を揃え、豪華な上映会となりました。

青年室のスタッフとともに1979（昭和54）年頃になると、青年室の若いスタッフが職員と一緒に結成した「キネマ・コーヒーサロン」が企画・上映に参加しての上映会『キネサロン』も加わり、実験映画や短編映画の特集上

映や聴覚しようがいしゃの方のために字幕付きの日本映画の上映会、映画関係者をお招きして上映後にお話を聞く《映画とお話の会》など企画も多様化したこともあって、月に2度3度と映画会が催されることも多くなり、1980(昭和55)年には1年間に37回もの映画会が開催されました。また、当時は1日に昼・夜2回上映することも珍しくなかったようです。

### 🐼 《CINEVOX》とは

1982(昭和57)年頃から開催日がそれまでの木曜日の夜から現在のように日曜日の昼2時に変更になり、1982年10月からは名称も現在と同じ《公民館映画会》となりました。それを機に映画会の企画・運営に興味のある一般の方々に広く参加してもらおうということ呼びかけて、結成したのが《CINEVOX》です。この《CINEVOX》、幾度かのメンバーの変遷を経て、今は結成当時を知っている人もいなくなり、その在り方も含めてすっかり様変わりしてしまいました。現在でも、毎回お配りしているパンフレットの裏表紙にその名をとどめています。

ちなみに《CINEVOX》記念すべき第1回上映会は1984(昭和59)年3月25日(日)、昼

1時半から『モスラ対ゴジラ』(1964年 監督 本多猪四郎)、『イェローサブマリン』(1968年 監督 ジョージ・ダンニング)の2本立てでした。

### 🐼 市内に二つだけの映画館が閉館

1987年、国立で唯一の映画館だった名画座「国立スカラ座」が閉館となり、国立市に映画館が無くなりました。それを受け、自分たちが見たい映画を自分たちで上映していこうという気運が国立在住の映画ファンを中心に高まりました。(国立さ・スカラ)《映画散歩の会》(エデン座)といったグループが結成され、盛んに上映会が開かれました。

当時は今よりも16ミリフィルムでの上映会が盛んだったこともあり、作品の種類も豊富で、レンタル料も安く、また教育機関などから無料で貴重な記録映画や実験映画、一般の劇場で公開されていない海外の作品などを借りてくることもできました。

そのため、カナダの実験アニメーション、ドイツのニュー・ジャーマン・シネマや戦前のサイレント映画の特集、当時珍しかった中国映画や韓国映画の上映、自主製作8ミリ映画特集など、今ではな

かなか組めない個性的かつバラエティ豊かな上映会が数多く開催されました。

### 🐼 映画会から生まれた「映画の話」

このような動きも1990年代半ばには収束し、僕が参加し始めた1995年頃は、映画会も毎月1回の通常の上映会と、映画関係者の方に映画にまつわる様々なお話をお聞きする年4回の「映画の話」の2つを主な柱とする形で定着していました。

「映画の話」は当初、映画の製作現場の方々にとどまらず、映画館の支配人や、映画関係の書籍を出版している方、映画の上映活動を研究されている方など映画を取り



「シネマトーク」でお話する北里宇一郎さん(脚本家)

巻く様々な立場の人に来ていただいて、映画の上映とは別に、お話を聞くことを中心にしてみました。大変興味深い話がたくさん聞けると好評だったので、その一方で、話の中で取り上げられた映画を見ていないとどうしても話が分かりづらい、と言った意見もあり、2002(平成14)年頃からは映画の上映後に上映作品の魅力や関連のあるテーマについてお話をしていたり、現在の形に変更しました。特に脚本家で記録映画の構成や映画関係の書籍の編集などもされている北里宇一郎さんのお話は分かりやすく面白いと評判もよく、今ではレギュラー企画として定着しています。

2011年からは「シネマトーク」という名称になりました。シリーズ「ニッポンの記録映画」ができた理由

### 🐼 シリーズ「ニッポンの記録映画」ができた理由

また、レギュラー企画といえば、年4回の《シリーズ「ニッポンの記録映画」》もあります。

ドキュメンタリー映画は、一般の劇場公開やテレビ放映、DVDも発売されることが少なく、なかなか見る機会がないのですが、劇映画とはひと味違った面白さや感動を与えてくれる作品も数多くあります。その魅力を伝えられない

か、ということでは始めた、というのは実は建前。正直、この企画の裏には、ビデオ・DVD全盛期を迎えたことによる、16ミリフィルム衰退の現実がありました。ビデオ・DVD、そして最近ではブルーレイの普及により、16ミリフィルムの需要が減ったことから、劇映画の16ミリ版の数が激減、それに伴うレンタル料の上昇もあり、劇映画だけで上映会を続けることが難しくなってきました。また、ビデオ・DVDの公的施設での上映に関する権利の問題もあり、ソフトラ化されていたら何でも上映できるわけではなく、レンタル料が安いわけでもありません。

そこで、年に何度か多摩図書館が所蔵している16ミリ映画の貸し出しを利用するしかないということになりました。

しかし、だからといって、上映作品は何でも良いということにはなりません。どんな映画があるのだろうと改めて皆で多摩図書館の所蔵リストを眺めてみると、数多く所蔵されているドキュメンタリー作品の中に、日本の記録映画史を語る上でも重要な作品や、作品として多くの人に見てもらいたい面白い作品・上質な作品が多数所蔵されていることに気づきました。めったに上映機会の無い埋もれ

これらの作品の上映をレギュラー企画として年4回、定期的に必ず行つてはどうだ、という話になり、《シリーズ「ニッポンの記録映画」》と銘打って、始めたのです。記念すべき第1回にふさわしい作品は何か、ということで議論や試写を行った結果、土本典昭監督不朽の名作『水俣―患者さんとその世界』(1971年)を上映しました。2004(平成16)年2月22日(日)のことでした。

最初はとりあえず2、3年、10回ぐらいはやりたいね、と話していたのですが、毎回、記録映画の上映会としては予想以上の観客動員があり、見に来ていただいた方からも毎回おおむね好意的な評価をいただくことができました。特に勅使河原宏監督の『アントニー・ガウディー』(1984年)では立ち見を記録しました。

また、監督でプロデューサーでもある大宮浩一さんや北里宇一郎さんの協力もいただき、多摩図書館所蔵以外の最近のドキュメンタリー映画の上映も行つたなど、企画の幅も広がりを見せ、9年間も続くことになり、今年9月の子どもをテーマにした短編3本を上映した『子どもたちの《世界》』で、《シリーズ「ニッポンの記録映画」》は、なんと38回を迎えました。

🐼 危機的な16ミリ映画の現状

あくまでもフィルム上映を基本として16ミリで上映を続けてきた映画会ですが、とはいえ16ミリフィルムを巡る上映環境はかなり厳しい状況になっているのは事実です。フィルムに関しては《シリーズ「ニッポンの記録映画」》の項で述べてきたような状況ですが、映写機に関しても、もはや生産は完全に中止されており、中古品しかありません。修理を行つてくれる会社も1社だけという状況で、部品の底を尽けば、修理も出来なくなつてしまいます。

これも時代の流れで仕方ないことなのでしょう。映画会でもこれからはDVDや

🐼 ブルーレイディスクによる上映も

行つていく方向で検討されています。それに先駆けて映画会でDVDによる上映を行ったのが、16ミリフィルムの状況悪化によってスタートした《シリーズ「ニッポンの記録映画」》で取り上げた『ただいま それぞれの居場所』『無常素描』『放射能を浴びた1945年』『ディア・ピョンヤン』といった最近のドキュメンタリー映画だった、というのは皮肉なめぐり合わせですが。

🐼 これからも名作を上映し続けたい

駆け足で映画会について振り返ってきましたが、これからも公民館では、思いつきり笑つたり、泣いたりして、楽しんでいただけるような面白い映画や感動の名作を上映していきたいと考えていますので、どうぞよろしく願ひいたします。

最後に、今年度これから予定されているラインナップを大公開！どれもオススメですが、特にオススメなのはやっぱり12月上映の日本人にイチバン愛された男・車寅次郎、通称・フーテンの寅さんの第一作『男はつらいよ』(1969年、監督 山田洋次)でしょう。

うか。まだ若々しい渥美清のパワー溢れる寅さんのハチャメチャぶりには爆笑必至！

個人的なイチオシは2月上映予定の《シリーズ「ニッポンの記録映画」Vol.39》『日本解放戦線・三里塚の夏』(1967年)。小川紳介監督の代表作・三里塚シリーズの第一作が遂に登場。これは入魂の傑作です！

そういえば、小川紳介監督は映画会第1回上映作『圧殺の森』の監督。渥美清は映画会初の劇場上映作『スクラップ集団』の主演俳優。その二人の作品が揃い踏みとは、なんか不思議な、因縁めいた運命的なものを感じますね。

……まあ、偶然ですけど……。

(了)

＜CINEVOX 公民館映画会＞  
これからの予定

12月22日(日) 昼2時～

『男はつらいよ』(1969年 ※第1作)

監督 山田洋次

出演 渥美清、倍賞千恵子ほか  
《シネマトーク》北里宇一郎(脚本家)

1月26日(日) 昼2時～

『フラガール』(2006年)

監督 李相日

出演 松雪泰子、蒼井優ほか

2月23日(日) 昼2時～

《シリーズ「ニッポンの記録映画」Vol.39》

『日本解放戦線・三里塚の夏』(1968年)

監督 小川紳介

3月23日(日) 昼2時～

『チャップリンの黄金狂時代』(1925年)

監督・主演 チャールズ・チャップリン



『男はつらいよ』

# 公民館のQ & A No.4



昨年の市民総合美術展の絵画展示〈公民館地下ホール〉

**Q.** 市民文化祭では、グループで活動発表をしたり、個人で作品出展をしたりすることができるんですか？

**A.** 今回の文化祭の発表グループや出展の募集は終了しています。

ただ、もちろん来年度以降の「くにたち市民文化祭」で、国立市民によるグループの活動を発表したり、個人の美術・書道作品を出展したりすることは可能です。「くにたち市民文化祭」は、毎年参加するグループで実行委員会を組織し、広く参加を呼びかけています。来年も4月頃に実行委員会が発足し、参加グループを募集する予定です。日頃の活動発表の機会としてご参加いただき、「くにたち市民文化祭」を共に盛り上げましょう！

**Q.** 11月の市民文化祭は、誰でも見学したり参加したりできるんですか？

**A.** どなたでも参加できます！

「くにたち市民文化祭」は、毎年秋に公民館や福祉会館などを会場に、市民の文化・芸術活動の発表や交流の機会として開催されます。今回も音楽コンサートや国際交流の催し、伝統芸能・美術展・お茶会・おはなし会など、さまざまな内容のプログラムが用意されています。どなたでもお気軽にお越しいただき、一緒に楽しんでいただきたいと思います。今回の見どころは、多くの団体が共同で行うプログラム！ 詳細は、「公民館だより」10月号やパンフレットをご覧ください。



昨年の合同いけ花展〈公民館3階集会室〉

## 〈第58回 くにたち市民文化祭〉 11月のサークル活動見学会

今月は、くにたち市民文化祭に伴い、公民館で活動しているサークルの見学・体験会を行います。日ごろ、サークル活動に関心はあるけど、どんなことをしているのか分からないという方も多いと思います。この機会をぜひ、ご利用ください。

- ◆国立あひるグループ(合唱) (8日(金) 昼1時～3時半)
- ◆グリーンコーラス (13日(水) 朝10時～12時)
- ◆トールペイントの会 (13日(水) 朝10時～12時)
- ◆国立太極拳サークル (14日(木) 夕4時半～6時半)
- ◆ライブモアパソコン (パソコン実習) (15日(金) 昼2時～5時)
- ◆ハングル友の会 (19日(火) 夕4時～6時半)
- ◆武蔵野リコーダーコンサート (20日(水) 夕6時半～9時半)

\*この他のサークルは公民館入口に掲示しています。

## 〈多文化共生事業〉 在日外国人児童・生徒の現状から考える 共生社会のあり方

講師 <sup>リ</sup> <sup>ゲンゾウ</sup> 李原翔 (外国人相談員、通訳)

国際結婚や就労のため日本で長く暮らす外国人が増えていることに伴い、学校や保護者の間ではその子どもたちの教育上の問題が浮上しています。特に小学校高学年から高校生の時期に、勉強についていけないなどの困難を抱える子どもたちが少なくないといえます。

神奈川県の公共施設や都内の高校で外国人教育相談や通訳をされている李原翔さんは、言語や制度の違いのため学校生活に問題を抱えている子どもたちと日々接しながら、課題の解決とよりよい支援のあり方を模索されています。

李さんのお話をうかがい、共生社会のあり方と子どもたちの未来について一緒に考えてみましょう。

と き 12月6日(金) 昼2時～4時  
と ころ 公民館 3階講座室  
問 合 先 公民館 ☎ (572) 5141

※申し込み不要。ご自由においでください。

— 基礎から学べる —  
市民のための「地方自治」日曜講座

今、地域のことは地域に住む私たちが決めるための改革が進められています。

自治体の役割は、権限・財源の移譲などにより、各自治体の独自性が拡大されていますが、この趣旨は、地方自治の主体である私たちに十分伝わってきているでしょうか。また、それは生活の充実・向上に役立っているでしょうか。

この講座では、地方自治の新たな動きを踏まえ、地方自治の考え方や仕組みをじっくり学び、今、私たちができることを考えてみたいと思います。

講師 平谷 英明 (帝京大学)

とき 全5回。いずれも日曜日、朝10時～12時。  
\* 1回のみ参加もできます。

ところ 公民館 3階講座室  
定員 30名 (先着順)

回	月日	内容
1	12月8日	私たちの暮らしを支えるもの ～住民自治の本旨と自治体運営～
2	12月22日	市民がつくる自治と公共 ～地域づくりの新しいカタチ～
3	1月12日	まちのお金のまわりかた ～地方財政のしくみ～
4	1月26日	国立市のお財布事情 ～市財政の現状と課題～
5	2月9日	これからの地方自治を考える ～今、私たちができること～

申込先 11月8日(金)朝9時～  
公民館 ☎ (572) 5141

く に たち ブッククラブ 時空をこえる言葉  
黒井千次『高く手を振る日』  
(新潮文庫)

講師 東郷 克美 (早稲田大学名誉教授・日本近代文学)

とき 11月14日(木)夜7時半～9時半  
ところ 公民館 3階集会室

申込先 公民館 ☎ (572) 5141  
\* 次回は12月12日(木)夢野久作「押絵の奇蹟」(『ちくま日本文学31』所収)です。

〈図書室のつどい〉  
難民高校生  
—若者が夢や希望をもてる社会とは—

お話し 仁藤 夢乃 (Colabo 代表)

仁藤さんは高校生時代に1ヶ月のうち25日を渋谷で過ごす「難民高校生」でした。そのような姿を見るとダメな若者と思われがちですが、彼女は居場所が欲しかったと語っています。

現在24歳の若者であり支援者でもある仁藤さんにお越しいただき、著書の内容を踏まえ、なぜ高校生が「難民化」するのか。今を生きる若者の社会のあり方を一緒に考えていきたいと思えます。

〈仁藤さんの本〉『難民高校生—絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル』(英字出版)

とき 12月1日(日)昼2時～4時  
ところ 公民館 1階青年室  
定員 20名(当日先着順)  
\* ご自由においでください。

く に たち 市 民 文 化 祭 映 画 会  
～伝統文化のひろば～

今月は、く に たち 市 民 文 化 祭 期 間 中 の た め 、 伝 統 文 化 に 関 連 し た 短 編 映 画 6 本 を 上 映 し ま す 。

『楽茶碗』(12分)

楽焼は茶の湯の道具として、桃山時代に千利休の指導により作陶。初代 楽家代々の秘蔵品を紹介。



『志野焼—荒川豊蔵—』(12分)

重要無形文化財保持者の荒川豊蔵の豪快で芸術性豊かな作風を紹介。

『音丸耕堂の彫漆』(12分)

漆を彫る彫漆の第一人者、音丸耕堂の仕事場を訪れ、その人と作品を紹介。

『髹漆・増村益城』(12分)

漆をしみ込ませた麻布を貼り重ねて素地を作る髹漆の作風を紹介。

『組み紐と結び』(12分)

名人 川島徳太郎の組紐の組み方、結び方を紹介。

『歌舞伎 衣裳』(12分)

歌舞伎の衣裳について、若き日の十二代市川團十郎をモデルに紹介。



とき 11月23日(土・祝)  
第1回 朝10時～、第2回 昼12時半～  
いずれの回も6本連続上映  
ところ 公民館 3階中集会室 定員 25名(当日先着順)  
\* ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈親子で遊ぼう・考えよう〉  
**親子科学実験遊び**  
発電していろいろなものを動かしてみよう!

親子で科学実験を楽しみましょう! 小さい子も安心して楽しめる実験をします。発電をしてみたり、色が変わる実験をしてみたり。家庭にあるものを使って身近な科学で驚き体験しましょう!

講師 山田 修平  
(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

とき 11月24日(日)朝10時~12時

ところ 南市民プラザ多目的ホール

定員 子ども(3歳~小学生)と保護者  
子ども25名(先着順)

持ち物 タオル、飲み物

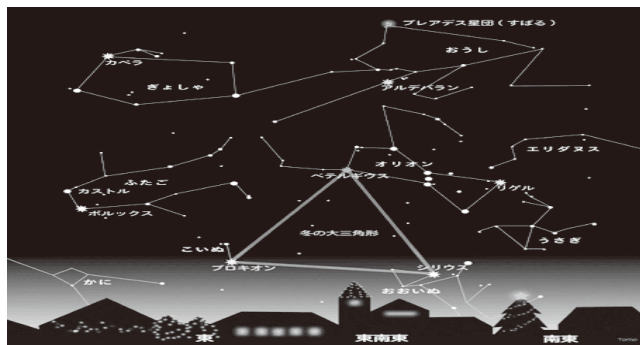
\*動きやすく、汚れてもよい服装でおいでください。

申込先 11月7日(木)朝9時~  
公民館 ☎ (572) 5141



☆ 〈親子で遊ぼう・考えよう〉 ☆  
**プラネタリウムで** ☆  
**星を見よう!** ☆

今回は新しくなったプラネタリウムを使って、桐朋中学・高等学校の地学部員のみなさんに、冬の星座のお話や彗星や惑星のお話をさせていただきます。その後は新しい施設の天体望遠鏡などを見学させていただきます。どうぞご参加ください!



お話し 上原 隼 (桐朋中学・高等学校教諭)

桐朋中学・高等学校地学部のみなさん

とき 12月1日(日)朝10時半~11時半ごろ

ところ 桐朋中学・高等学校 教科教室棟(4階)  
\*集合場所は北門(桐朋通り)です。

用意 上履き、靴袋をお持ちください。

対象 子どもと保護者

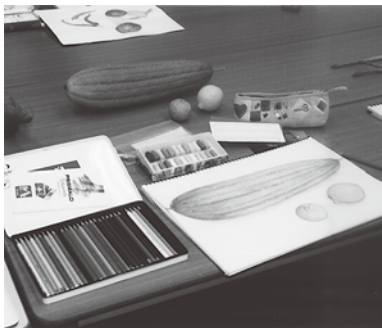
定員 60名(申込先着順)

申込先 11月8日(金)朝9時~  
公民館 ☎ (572) 5141

〈美術のワークショップ〉  
**生き物としての野菜の  
作品展**

6月から10月まで、画家の降矢洋子さんを講師に実施した「生き物としての野菜を描こう」の作品展を行います。

講座では様々な野菜を描きました。食料や商品としてしか見ていなかった野菜を生き物として見た時、どのように描かれることになるのでしょうか。ぜひご覧ください!



期間 11月10日(日)朝9時  
~11月16日(土)夕5時(月曜休館)

ところ 公民館 1階市民交流ロビー

連絡先 公民館 ☎ (572) 5141

しょうがいしゃ青年教室  
**陶芸講座作品展**



陶芸講座の参加者が作った、コーヒーカップやトースト皿などを展示します。作品展終了後は公民館の喫茶「わいがや」で使われます。おいでください。

とき 12月7日(土)夕4時~14日(土)昼2時

ところ 公民館 1階市民交流ロビー

\*陶芸講座(講師 木村富美枝・大野博美)は、滝乃川学園の協力を得て5月から11月まで行いました。

みんなで考えよう! 地域ケアの未来  
孤立しない・させない  
高齢社会を支える地域の「絆」づくり

ゲストスピーカー 鈴木 恵子・江島 恵  
(ボランティアグループ「すずの会」/川崎市宮前区)  
猪飼 周平 (一橋大学)

超高齢社会に向かう現在、私たちはどんな取り組みができるのか考える講座です。今回は、高齢者やしょうがいしゃ、その家族をお互いに支え合い、誰にでも優しい街づくりネットワークを目指すオンリーワンの市民ボランティア組織「すずの会」(川崎市宮前区)の先進的な活動に学びます。今回からの参加も大歓迎です!

とき 12月8日(日)昼2時~5時

ところ 公民館 地下ホール

定員 30名(先着順)

申込先 11月8日(金)朝9時~  
公民館 ☎ (572) 5141

共催 高齢者支援課



# ひろば

(8ページにもあります)



落ち葉が風をおこす夜

撮影 河西栄さん(青柳)

## 国立パードゴルフ会員募集

一本のゴルフクラブで羽根付ボールを打ち、籠に入れるミニゴルフでゴルフ経験者は勿論初心者も楽しめる競技です。見学、体験入会、大歓迎です。(用具の準備有)

日時 毎月水曜日 朝9時～12時  
場所 谷保第三公園 野球場  
連絡先 岡田(575) 1358

## 墨絵の年賀状づくり

賀状に一筆墨絵を添えてみませんか。主催 西福祉館運営委員会 講師 富樫廣志(水墨画) 無料 先着20名。小筆のみ持参。

日時 11月15日(金)昼2時～4時  
場所 西福祉館 一階和室  
連絡先 西福祉館(573) 9926  
火木土の午前

## 人物画の会 2013年展

人物画を中心に日頃芸小ホールで描いているグループです。静物、風景画も加えて展示いたします。絵画を交え、皆様とお話できるのを楽しみにしています。

日時 11月19(火)～23(土) 11～18時  
場所 芸小ホール ギャラリー  
連絡先 榎本(571) 0385

## ガールスカウト東京都第148団

ガールスカウトと自然の中でゲームを楽しむ「なかよしラリー」を開催します。対象は来年年長と小学校低学年の少女です。11月20日までに秋山までご連絡ください。

日時 11月24日(日)朝9時半～12時  
場所 矢川上公園(雨天中止)  
連絡先 秋山(575) 2713

## 改憲草案を読む 第二回

ROCKでもない改憲草案を読む。スペースF学習会。どなたでも参加自由。終了後交流会あり。

参加費500円 スペースF  
日時 11月19日(火)夜7時半～9時  
場所 スペースF  
連絡先 事務所(573) 4010

## 国際友好会 WINGの会

十一月のWINGの異文化コミュニケーションの会は、留学生のヒップスさんをお招きしてオーストラリアの文化について話し合います。参加費は百円です。

日時 11月21日(木)夜6時半～  
場所 一橋大学国際交流会館  
連絡先 芦沢(576) 0474

## 第183回くいしんぼクラブ

料理が得意なカールさんと家庭料理を作ります。材料費800円。ふきんとゴミ袋をご持参ください。

日時 11月30日(土)昼1時～  
場所 福祉会館 3階料理講習室  
連絡先 八宮(571) 1007

1月号の「ひろば」原稿締切りは、印刷の都合により  
12月1日(日)夕5時です。

## 〈社会体育事業〉 「街を・山を歩く」第3回

日時 12月5日(木) ※雨天中止  
集合 一橋大学西門前 朝8時30分  
実施方面 東京スカイツリー方面  
対象 市内在住、在勤者  
チラシ 11月21日(木)から市役所3階生涯学習課、公民館、総合体育館、北・南市民プラザで配布します。  
申込・問合せ先 日程、コース、申込方法等、チラシの内容を確認のうえ、11月22日(金)～12月2日(月)までにお申込みください。  
教育委員会 生涯学習課  
社会教育・体育担当 ☎(576) 2107 (直通)



## 公民館運営審議会報告

10月8日(火)第29期第12回定例会を開催。委員13名、館長、職員2名が出席。傍聴 1名

### 前回の議事録確認

○諮問「現代の地域社会に求められる公民館の事業」について。前回に引き続き答申の作成に向けて意見交換を行い、地域住民が必要とする公民館の課題等、各委員からの提案があった。

それらの提案をどのように整理していくかを議論し、課題をいくつかにまとめてはどうか、それについて委員をグループに分けて検討していくことなどを話し合った。次回以降の議論のたたき台を委

### 報告事項

○公民館だより編集研究委員会 今月号の文化祭特集は工夫されて見やすかったなどの意見が出された。

○社会教育委員の会 9月17日第20期第5回定例会が開かれ、子育て支援センターの所長からお話をお聞きした。

○東京都公民館連絡協議会 9月12日委員部会研修会が上田幸夫日本体育大学教授をお招きして、おこなわれた。次回の研修会は12月1日、元福生市公民館館長の伊東静一さんのお話。

次回は11月12日(火)午後7時15分から。傍聴歓迎。(志村)

— 今月の公民館 (11月・12月初) —

\*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 10日(日) 昼~ \*生き物としての野菜の作品展
- 14日(木) 夜 ブッククラブ『高く手を振る日』黒井千次
- 23日(土・祝) 朝・昼 \*くにたち市民文化祭 映画会  
「伝統文化のひろば」
- 24日(日) 朝 「親子科学実験遊び一発電していろいろなもの動かしてみよう！」
- 12月1日(日) 朝 「プラネタリウムで星を見よう！」
- 1日(日) 昼 \*図書室のつどい「難民高校生」
- 6日(金) 昼 \*多文化共生事業  
「在日外国人児童・生徒の現状から考える共生社会のあり方」
- 7日(土) 昼~ \*陶芸講座作品展
- 8日(日) 朝~ 『「地方自治」日曜講座』  
昼 高齢社会を支える地域の「絆」づくり



落ち葉色に染まる大学通り

撮影 松川雄次郎さん(東)

ひろば

(7ページにもあります)

家事家計講習会

記帳が支える日々の暮らし  
先を見通す予算生活。

資料代400円 託児あり(要予約)  
主催 多摩友の会(国立方面)  
後援 国立市教育委員会  
日時 11月26日(火)朝10時~12時  
場所 国立商協ビルさくらホール  
連絡先 上原(575) 8456

くにたちふれあいコンサート

歌ソプラノ 遠藤喜美子、ピアノ  
宮本あんり、ヴァイオリン 尾張拓  
登、日本歌曲、抒情韓国歌曲、ヴァイオリン名曲集など演奏。合唱  
高齢者福祉を考える会、入場無料  
日時 11月7日(木)昼2時開演  
場所 くにたち市民芸術小ホール  
連絡先 藤原(573) 0091 福永(577) 3750

コロソアーヴェ第12回演奏会

「虫の絵本」「心の四季」、ハー  
プ伴奏による「キャロルの祭典」、  
パーカッションを交えて「由紀さ  
おり1969より」を演奏します。  
入場料千円 当日券あり

日時 12月1日(日)昼2時開演  
場所 府中の森芸術劇場  
連絡先 亀田(090) (4388) 7698

彩(SA)・作品展

四季の植物や身近な小物などを  
水彩やパステルで描いています。  
作品展を開催いたしますので、ご  
覧ください。

日時 12月6日(金)~8日(日)  
朝9時(初日10時)~18時  
場所 コミュニティスペース旭通り  
連絡先 堀江(575) 1489

〈サークル訪問206〉  
KATTATAN

国立市バレーボール連盟に所属  
する、9人制の女性チームです。

第二小・第八小学校の保護者を  
中心に、友人や職場の人達に声か  
けをして6年前に結成。

日曜日の昼間と水曜日の夜間で  
月5~6回、主に第八小学校体育  
館で練習しています。

チーム名の「カタン」は、響き  
の良さで決まりました。

練習前にキャプテンの柴田和美  
さんに話を伺いました。

「強いチームになることも大事  
ですが、家族の協力があったこそ  
参加できるので、個々の事情を受  
け入れ、和やかで楽しい時間を共  
有していきたいと思っています。

現在は女性13名ですが、年に1  
度男女混合大会があるので、男性  
にも参加してもらっています。

それぞれ夕食の準備を済ませて、  
6時半頃からメンバーが集まり始  
めました。

ランニング、2~3人でのパス  
練習。試合を想定した練習では、  
迫力あるアタックに果敢に跳びつ  
き「ナイス・レシーブ！」の声が  
全員でコート半面を使い、リズム  
良く進めます。



さわやかチームです！

熱気の中にも、時おりさわやかな風が吹く「KATTATAN」。他チームからのビジターも含め、今日も最終的には20名になり、試合練習もできました。アットホームな雰囲気がこのチームの魅力なのでしょう。  
9月には市の大会がありました。今は次の試合に向けて頑張っています。  
☆メンバー募集中  
未経験者も、仕事を持っていても、バレーボールが好きな人はビジターで体験を。大歓迎です。  
現在20代~40代の構成ですが、年齢不問！とのことでした。  
スポーツの秋。一緒に汗を流してみたいかがでしょうか？  
連絡先 柴田(090) (8009) 9368  
〈文・写真 小原正子〉